

卷頭言

順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究12
P.1 (2024)

卷頭言

順天堂大学保健看護学部 学部長

小池 道明

順天堂保健看護研究第12巻をお届けします。

順天堂大学における看護教育の歴史は、明治29年(1896年)順天堂医院医療看護婦養成所開設に始まります。昭和51年(1976年)看護専門学校、平成元年(1989年)医療短期大学、平成16年(2004年)に浦安の医療看護学部、そして平成22年(2010年)には、私が現在学部長を務めさせていただいている保健看護学部が、富士山を望む美しい三島の地に開設されました。順天堂は、学是である「仁」の精神に基づき、最新医療に関する知識の修得と技術の伝授に努めるとともに、「患者の痛みを理解できる」心と、豊かな人間性・感受性を兼ね備えた医療人の育成を目指しています。

世情的な話をさせていただくと、昨今、看護学教育の重要性がより認知されるようになり、全国の大学に看護学部や学科が次々と開設されています。2022年初めには、大学の看護学科への入学者が初めて3年制専門学校への入学者を上回る結果となり、最近では修士・博士課程へのニーズも増して参りました。と申すのも昭和の時代は看護師を量産することのみ目が向けられておりましたが、平成に入り質の高い看護師を養成することに注目されるようになり、さらに平成の終わりから令和の時代は、まさに看護師のキャリアアップ教育の需要は高まり、看護師の職場においても専門看

護師制度、認定看護師制度、特定行為研修制度などが開設され、より専門性の高い看護師が輩出されるようになりました。これらの制度の中には、大学院の卒業資格を必要とするものがあり、益々大学院の存在がクローズアップされてきているのが現状です。

たとえば私が25年前に研究していたアメリカでは当時でも看護師の地位はかなり高く専門的な技能も任せられるシステムが構築されていました。ただし、この制度には地位と同時に看護師育成の過程における高いハードルが多く設けられており、膨大な学習と激しい競争を勝ち抜いた看護師のみが手にすることができる特権と責任となっています。そして、看護師が医師と肩を並べる地位となっている理由もまたそこにあるように思われます。

本学部でも看護分野における高い教養と高い志をもつ学生を養成し、少子高齢化に屈しない優秀な人材を多く輩出することが喫緊の課題であり未来への希望だと思っています。

大学教員が研究や教育について積極的に論文を執筆し、より高い教育力を追求し、今後は学生の研究力をつけることにより卒業生が大学院へ積極的に入学することを支援できるように、この雑誌に多くの論文を投稿していただき、保健看護学部の発展に寄与していただければと、心よりお願い申し上げます。